

勿凝学問 291

民主党にマニフェストの愚直な実行を求めるといことは、どういう意味なのだろう？

うん、まあ、歴史上の記録として、一応、書き留めておきますね

2010年3月22日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

『週刊社会保障』という雑誌がある。これは、結構、読まれている——ということがこの2カ月くらいでよくわかった。というのも、この2カ月ほど、「週刊社会保障に書かれてあった、「初心忘るべからず」という論文、読みましたか？」と、社会保障に関心を持っている人に会う度に、さらにはメールでも尋ねられたからである。

まあ、僕に「この前の週刊社会保障読みましたか？」と聞く人たちの気持ちは分かる。人の記憶に強く残る論文だったので、一応、そのあたりを歴史上の記録として書き留めておきますね。論文の最後の2文だけを紹介すれば・・・

論壇「初心忘るべからず ——民主党政権の社会保障政策」

『週刊社会保障』2009年2月1日号

東京大学教授 社会政策学会会長

武川正吾

.....

民主党政権は、君子豹変することなく、マニフェストを愚直なまでに実行に移していくことが肝要だと思う。初心忘るべからず。

この論文が、今年の総選挙直後に書かれているのならまだしも、政権交代から5カ月ほどすぎた2010年2月号の『週刊社会保障』に載っている。みんなの驚きは、そのあたりにも一因があったようである。

総選挙の前から今日まで、一貫して次のようなことを言い続けてきた僕とは、対極にある武川氏の認識ですね。

「社会保障と国民経済」

『都道府県展望』2010年3月号(No.618)

平成21年度全国知事会主催講演会(2010年1月14日)

財源が絡む問題で、正しいことをやろうとすればことごとくマニフェスト違反になる。本当は、財源の裏付けのない公約は、マニフェストとは呼ばないのですが、日本ではなぜだか、財源の箇所にも夢物語が記載された選挙公約さえも、マニフェストと呼ぶ風習があ

る。

社会政策学会の学会長さんと僕とでは、どっちが正確に、ものが見えているのでしょうかね？ 僕のようなことを言う人はいないけど、武川さんと同じことを言っている人はいる。

鳩山政権「新成長戦略」は国民への裏切りである——中長期的な経済戦力の構築を

『世界』2010年3月号

金子勝、武本俊彦

民主党政権はいま一度マニフェストと INDEX2009 に立ち返り、愚直にそれらを積み上げていく努力が求められている。

武川氏、金子氏、武本氏の3人 対 僕ひとり——多数決で負けだな。

おわり

つぶやき付録

武川さんは、僕の文章の中に、過去2回ほどでてくるので紹介しておきます。

勿凝学問 31 [ビスマルクの呪縛——安定性、硬直性、既得権は同じ現象を違った側面からみた評価](#)

勿凝学問 223 [ようやくまともなベーシック・インカムの本が出てきたのでワンコメント——実は僕の「社会保障目的消費税をネットでみる視点」はミードの流れにある](#)

思うんだけど、「財源論なき社会政策論者＝租税と社会保険が同じに見える論者＝心の優しい方のベーシック・インカム支持者¹」という、三位一体仮説が立てられそうな気がするんだなあ。そして、政権交代後に、事業仕分け、予算編成を経て、半年たった今に至っても、3割台が政権政党を支持しているらしいけど、この人たちはどういう人なのかと不思議に思うこともある。なるほどお、インテリの中での支持者は、こうした三位一体論者たちなんだなあと、「初心忘るべからず」論文を読んだときに思ったりもしたものである。

たしかに、民主党は、財源論なき社会政策論者たちがすばらしいと褒め称えるマニフェストの足枷からなんとか解放されたいと思っているわけで、その姿勢が、彼らからは逃げ腰の姿勢に見えるんだろうと思う。でも、「ムダを省いて財源を」という公約は、今やまったくのウソだと言うことが、メディアレベルの素人さん達にも分かりきったことになっていて、財源がないからマニフェストなんて実行できるわけがないんだよね。実行できないことを、現政権に求める意味って、いったい何なんだろうと、ついつい考え込んでしまう。

でも、民主党を退陣に追い込む一番の方法は、民主党のマニフェストを褒め殺しすることかもしれないわけで、三位一体論者たちは、ひょっとすると、彼らにマニフェストを愚直に実行させることにより市場からのパニッシュメントを呼び起こし、市場の暴力で現政権を打ち落とす超高等戦術をねらっているのかもしれない——そして、「正しいことをやろうとすればことごとくマニフェスト違反になる」と言い続けてきた僕が、実は、現政権思いの優しい研究者だと勘違いされたりしたら、ちょっと困るんだけどね(笑)。

¹ 心の優しいベーシック・インカム論者の他に、心の優しくない方のベーシック・インカム論者というものもある。前者は、医療、介護、保育、教育などの十分な現物給付の上乗せとしてベーシック・インカムを論じる人たちで、その特徴は財源論が苦手な Warm heart を持ち合わせているけど、残念ながら Cool Head ではなく Warm Head の御仁たちである。後者の心の優しくない方は、もっぱら官不信論者であり、Cool Head で、しかも Cool Heart の持ち主たち。なお、前者の心の優しいベーシック・インカム論者は、さすがに最近、ベーシック・インカムにはいろいろとありと論じているようで、僕らから見れば、えっ、それって、昔からある選別主義か普遍主義かの軸の中で議論していた、あるカテゴリーに給付を絞ったただの普遍的な社会保障給付のことだよというものでベーシック・インカムの仲間に入れていない。その動きをみていると、なるほど、そういうふうにかかわる方法もあるのかと、感心はする。でもまあ、大変だなあとも思うけど。

付記

前頁の脚注 1 に関連する内容なので、[2010 年 4 月 28 日](#)にホームページに書いていたことを貼り付けておきます。

- ベーシックインカム論者は、2 種類あってね。

cool head	cool heart	心冷たき BI 論者
warm head	warm heart	心温かき BI 論者
cool head	warm heart	マーシャルが言った経済学研究で求められ、 育まれるべき資質

マーシャルが教授就任演説の際に言ったのは、cool heads **but** warm hearts。ベーシックインカム論者は、cool head **and** cool head 派と warm heart **and** warm head 派がある模様。まずは、月に 7 万円を国民全員に配ったら、12 万円を全員に配ったらと必要額を計算してみることだ。僕がしばしば言う「集めるにしても配るにしても、薄くひろくの怖さを知っておくことだ」の意味が分かると思う。BI の善し悪しを考えるのはその次の作業だ。先日講義で話したように、「[制約条件下での極大化](#)」という考え方を徹底的に身につけるように。とにかく、考える順番を間違えないことだな。でないと、莫大な時間を無駄にすることになる——ひとりの人間としても、そして社会全体としても。次もご参考までに。

なお、上の文章は、次の文章のに続くものです。

- 『週刊エコノミスト』、どうもな。今週は、[日米英 同時破産 膨大な借金とはじまった「悪い金利上昇」](#)と来たか！
 - 枝野行政刷新相インタビューの最後は笑った

枝野行政刷新相
国民に判断を仰ぐのは、夏の参院選ではない。政権交代から 4 年の間に負担増の話しが出来る状況を整えたい。それまで日本の財政に持ってほしい。

- 4 年間、日本の財政がもつかどうか不安を抱えながら、あんなことをやるわけだ。まあ、党から政府に派遣された総理大臣が、党の言いつけを守って負担増を封印しているんだから、従うしか術のない政府の若い政治家たちにできることは、日本の財政が持続できることを祈るだけだろうな……。

- 「堀江貴文×湯浅誠」の、「堀江 じゃあ、12万円ならどうか」「湯浅 はあ・・・」もウケた。

2011年5月25日のHP

そう言えば、5月9日の国家公務員初任研修で、こういうシーンが。

- 「先生は、ベーシックインカムはご専門ではないと思いますが、どう思われますか？」
- 「専門じゃないし、専門家にもなりたくないですけどね。
ところで、ひとり1万円を国民全員に配ったらいくらになると思いますか？」
- 「1兆2千億円ですか」
- 「そう。でっ、君は、ベーシックインカムにひとりにいくら必要だと思う？」
- 「10万円は必要かと」
- 「ということは、一ヶ月で12兆円必要ですね。それを12ヶ月配ったら？」
- 「えっとお、144兆円」
- 「今年の税収は？ それに、さっき話したけど、生活保護費はいくら？ そのうち医療扶助なんかを外した現金給付はどれだけだったっけ？ さっき、Sickoを少しみたけど、あそこで描かれていた医療問題って、ベーシックインカムを配っておくだけで解決する？」
- 「・・・・・・・・」
- 「ベーシックインカムなんて、まじめに考えてあげる必要がどこにあるんだろうね。。。」

と言って、マーシャルの cool heads but warm hearts の話をして、ベーシックインカムを言っている人には2種類あって、cool head and cool heart 派と warm head and warm heart 派でね・・・と延々と遊んできた次第。warm head and warm heart 派が空想的社会保障論者に属するわけだけど、僕の言う意味でのポピュリズム政党にとっては、彼らの利用価値はそれはそれは高い高い。。。その結果の悲喜劇が、今の状況さ。でもまあ、国民が選んだ政治なんだから、国民はとにかく甘受するしかあるまいよ。いったん権力を与えたら、そう簡単に剥奪できない——法律はそういうふうにならされていることをよ～く学ぶ、今はそういう機会かもな、2度と同じ失敗をしないように。

2012年7月18日のHP

これが、以前話した調査——下記の「問」をみて、違和感がない君は今期の成績Dだろな(笑)。

表3 年金と生活保護

(%)

	年 金		生活保護		格差がなくなった ら働かなくなる	
	世代間の 助け合い	世代間の 公平	労働能力ない人 に限るべき	労働能力の有無 に無関係	賛成	反対
全国 2000	19.1	80.1	—	—	—	—
全国 2005	20.9	72.3	64.4	29.0	65.6	28.7
全国 2010	21.9	78.2	67.4	32.0	63.7	32.2

年金と生活保護

以上のような原理的な次元とは別に、次に、もう少し具体的な政策に近いところで、人びとの考え方がどう変わったかを、みておこう。ここで取り上げるのは、年金と生活保護である。

年金については、次のような問い方をしている。

問 A、B 2つの対立する意見のうち、しいて言うと、あなたはどちらの意見に近いでしょうか？

A の考え：公的年金は世代間の助け合いなのだから、世代間に不公平が生じるのはやむをえない。

B の考え：公的年金においても、世代間の不公平が生じないように、納付した保険料に見合った年金を受け取れるようにすべきだ。

A が「世代間の連帯」や「世代間の助け合い」を重視する考え方で、賦課方式の年金が採用されているときは、この種の主張が前面に出てくる。これに対して、B は「世代間の公平」を重視する考え方で、公的年金もなるべく積立方式に近づけたいとの主張につながる。この質問に対しても、日本の

武川正吾「2000年代の社会意識の変化」武川正吾・白波瀬佐和子『福祉社会の意識と調査』

この本、8章の白波瀬さんの「若者の社会保障への期待」は、社会保障教育に携わる人たちには一読の価値あり。